

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
1	P5 (4) 学校施設の老朽化	荘野小学校は、便利は悪くないので、統合後に短大・大学として利用できないか。	いただいた御意見につきましては、今後の跡地利用の取組を行う際に参考にします。	無
2	P5 (6) ①表現力・適応力について	文部科学大臣表彰のように全国で評価されている取組を他校や市民に伝える場が少ない。	プレスリリースやSNS、広報等で広く発信しています。今後も引き続き、積極的に発信していきます。	無
3	P10 (3) 統合後の通学について	統合後、通学が不便になる分、「それでも学校（学び）が楽しい」と思えるよう教育内容と教員の向上が必要。	魅力ある学校づくりを目指して、現在も各校がコミュニティ・スクールを効果的に活用し、強みを生かした学校運営を行っています。今後も、新たな学校教育ビジョンのもと、子供たちに養いたい資質・能力を明確にし、教育内容や指導方法の改善・充実を図っていきます。	無
4		学校数は減少させないで、学校数を増やし、身近な地域で子どもを育てることが大切である。政府にもっと教育費の増額を要求し、学校の施設を充実させ、子どもを増やすような政策を取る必要がある。	児童生徒数が減少する中、本市では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に行うことにより、「主体的・対話的で深い学び」をコミュニティ・スクールを中核とした義務教育学校で実現したいと考えております。 そのうえで、市内の各学校において、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うため、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせることが重要であり、これからSociety 5. 0と呼ばれる時代を生きていく子供たちには、そういった資質能力がより求められると考えております。 こうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されることが望ましいことから、一定の学校規模を確保する学校適正配置の取組は避けて通れない課題であると考えております。	無
5		学校教育施設は地域の共同社会を支える重要な役割も果たしているため、竹原市立学校適正配置計画は中止してほしい。コスト削減、効率化優先ではなく、保護者、地域住民の願いを応える教育条件を整備してください。	4と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
6	P4 (3)小規模校の課題	仁賀小学校が少人数で、集団を生き抜いていく力が育成できないのであれば、遠隔授業等を取り入れて、さまざまな学校の人達と交流するなりして共同学習をする工夫があってもいいと思う。小規模特認校として、仁賀小学校の存続を希望します。	小規模特認校制度については、適正配置懇話会の答申において、本市が目指すべく学校運営協議会を中核とする義務教育学校づくりとは相容れないことから、新たな学校選択制の導入と同様に、継続することはなじまないと示されました。しかしながら、9月1日の教育委員会会議において、これまで仁賀小学校が豊かな自然環境のもと、自然に積極的にふれあい、地域との出会いや交流を大切にされた教育活動の中で豊かな人間性を培いたいと希望する児童や保護者等に、多様な教育の機会を創出してきた成果を今後も活かす必要があるのではないかという意見が出されたことを踏まえ、（仮称）賀茂川学園に小規模特認校を配置することを適正配置計画（案）に明記し、パブリックコメントを実施したところです。今後、小規模特認校としての機能が適切に発揮できるよう、具体的な内容について関係者と協議しながら検討していきたいと考えております。	無
7	P9 図2 竹原市立学校の統合再編スケジュール	将来的に市内に小中一貫校を1校にしまうと、集団生活がうまく送れず、不登校になってしまった時の受け皿になることはないか。	（仮称）竹原学園については、現時点では決定事項ではありません。今適正配置計画終了後は、義務教育を巡る変化や児童生徒数の状況等に応じて、適宜適正配置懇話会を設置し検討を進めてまいります。	無
8	P4 (3)小規模校の課題 ②必要な資質・能力を育成する上での課題	小規模校の課題として、運動会など集団生活や学校行事の際に制約が生じることとあるが、仁賀小学校の運動会では少人数だからこそ、全員で一致団結して行う姿が見られ、高学年は率先して動き、低学年のフォローもきちんとしているので、低学年も気後れすることなく誰もが楽しんでいた。	6と同じ	無
9	P4 (3)小規模校の課題 ②必要な資質・能力を育成する上での課題	部活動やクラブ活動は人数が少ないと限られてくるが、今は学校外の活動も多々あるので、必ずしも活動ができないことはないと思う。小規模特認校として、仁賀小学校の存続を希望します。	6と同じ	無
10	P4 (1)児童生徒数の現状について	仁賀小学校の児童は平成14年が16名、令和4年10月17人と他校に比べて大きな減少がなく維持できているということは、校区外から需要があるということである。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
11	P5 (3)小規模校の課題 ③学校運営上の課題	課題として、子供と向き合う時間の確保が難しくなるということがあるが、仁賀小学校では細かなところまで先生方に見ていただいていると感じている。小規模特認校として、仁賀小学校の存続を希望します。	6と同じ	無
12	P6 (6)保護者アンケートの結果	規模が大きくなれば、きめ細かな個別の指導を行うことは可能でしょうか。規模が大きくなると先生方の負担も増え、目が行き届かないことも出てくるのではないのでしょうか。小規模特認校として、仁賀小学校の存続を希望します。	6と同じ	無
13	P7 (3)将来の教育の方向性	「地域の歴史や文化などの特色を活かした教育もあわせて進めていきます。」とあるが、地域の方の意見を聞かずに新聞記事にするとところからして、どのように地域の歴史文化などの特色を活かすことができるのでしょうか。	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第21条第1号において、教育委員会の所管する学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することは教育委員会が管理し、及び執行すると規定されております。 このことから、教育委員会が諮問機関の意見や学習指導要領、また市が進めようとする教育等を踏まえて、学校施設の配置のあり方を検討したうえで方針を定め、市民に説明していくことが、法律に基づいた教育委員会として責任のあるやり方であると考えています。	無
14	P8 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	仁賀小学校の良さを理解しているのであれば、小規模特認校として存続してください。	6と同じ	無
15	P8 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	仁賀小学校は校舎も大変立派で、児童が相手を思いやることができるように見受けられる。財政的なこともあると思うが、未来ある子供たちにいろいろな選択肢があっても良いと思う。	6と同じ	無
16		仁賀小学校をなくさないでください。	6と同じ	無
17		段階的に統合するのではなく、スクールバスなどの運用により、無駄な建設をせずに有効かつ恒久的な学校配置が必要と考える。	P10 「5コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定」で記したように本市ではコミュニティ・スクールを中核とする一定規模の義務教育学校を設立することにより、地域に根差した9年間の系統性のある小中一貫教育や、地域の教育力を活かした特色ある教育を推進していきます。	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
18		段階的統合をするのであれば、放課後児童クラブの学年的利用とタクシー送迎について、どのように計画しているのか。	統合再編後も放課後児童クラブが円滑に運用できるよう担当部署と連携してまいります。	無
19		学校区の変更に伴い、子供会について連動して考える必要があるが、どのように考えているのか。	統合再編後も子供会が円滑に運用できるよう関係者と協議してまいります。	無
20		魅力的な教育環境は人口減対策になるので、この機会に取り組みを進めてほしい（イエナプランやバカロレアなど）。	いただいた御意見も参考にさせていただき、地域に根差した9年間の系統性のある小中一貫教育や、地域の教育力を活かした特色ある教育を推進していきます。	無
21		竹原学園設立にあたっては、県立高校2校のうち、1校を市立化し、小中校一貫の充実した特色ある教育体制を築いてほしい。	（仮称）竹原学園については、現時点では決定事項ではありません。今適正配置計画終了後は、義務教育を巡る変化や児童生徒数の状況に応じて、適宜適正配置懇話会を設置し検討を進めてまいります。 P8 「5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定」で記したように就学前から高等学校までを見通した教育を進め、本市の児童生徒が成人になるまで見通しをもって学習できる環境を整えていくために、市内の高等学校がより魅力ある学校となるよう連携強化を進めるとともに広島県教育委員会と積極的に協議を進めていきます。	無
22		組織として賀茂川学園（および将来的な竹原学園）に統合するのは良いが、立地は分散してほしい。立地分散には仁賀小学校が設備が老朽化していないので最適である。	6と同じ	無
23	P3 (1) 児童生徒数の推移 P8 (1) 今後20年の見通しを踏まえた統合再編スケジュール	20～40代の子育て世帯や子供たちへの支援、働く場所の確保により、子供を産み育てやすい環境作りを整えてください。	担当部署と連携して、子育てしやすい環境づくりに努めてまいります。	無
24	P4 (3) 小規模校の課題 P7 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	小学生は、地域の中でゆっくり育てていくべきで、統合は中学校から考えた方が良い。	4と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
25	P2 1 本計画の趣旨 2 計画期間	市ホームページだけでなく、広報や住民説明会により説明を十分してほしい。	本計画策定後、各地域で説明会を開催し、保護者や地域住民の方に本計画の趣旨を御理解いただけるよう努めてまいります。	無
26	P8 6 具体的な統合再編	「竹原市立小中学校における『通学区域の弾力化』及び『小中一貫教育』の在り方について」（平成19年3月）の「3.2教育課程を中心にした4-3-2制システムの採用」の項目にある、デメリットへの対策を盛り込まれるとなお良い。 （教育・学習コミュニティの崩壊に拍車がかかること、教員の疲労の蓄積、メンタルヘルスの破壊が増えること、学校の皮相的な評価（学力の高い学校など）が目立ってしまうこと）。	「竹原市立小中学校における『通学区域の弾力化』及び『小中一貫教育』の在り方について」は、平成19年に竹原市立学校教育システム検討委員会から答申を受けたものですが、普遍的な課題については、御意見をいただいた通りです。統合再編後も、学校運営協議会制度を活用し、市内の全ての学校においても、地域に根ざした特色ある教育を展開し、地域の担い手となる子供たちに資質・能力を育んでいきます。また、今日においては、学校の規模にかかわらず教員の働き方改革の推進は不可欠であります。様々な状況に対応できる一定数の教員の配置が可能である学校規模の確保が必要であると考えております。	無
27	P10 (3) 統合再編後の通学	現時点ではこれで十分と思うが、児童生徒や保護者への負担について具体的に対策を考えていく必要がある。	統合再編後も児童生徒が安全に通学できるよう通学支援について、十分検討してまいります。	無
28	P8 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	仁賀小学校は、市立学校の中でも特殊性が高い学校で立地環境や教育内容が優れているだけでなく、市内にそういう学校があることに意味がある。また、現在所属している小学校に通えなくなったら、仁賀小学校があるということが心の拠り所となる。そのため、仁賀小学校を残して、3校を統合し、最終的には竹原学園と仁賀小学校の2校にしたら良いと思う。	6と同じ	無
29	P5 (6) 保護者アンケートの結果	保護者の意見はしっかりまとめられているが、児童生徒や教員の意見もしっかり聞いてもらいたい。	児童生徒や教員の意見については、必要に応じて、参考にさせていただきます。	無
30	P3 竹原市立学校の現状と課題	仁賀小学校の校区内の児童数は減っているのも関わらず、仁賀小学校の児童数がこの20年変化がないということは特認校制度を利用した校区外の児童数は増えているのではないかと。需要は増えていると考えられる。	6と同じ	無
31	P10 (3) 統合再編後の通学	仁賀小学校への通学支援を実施する等して、校区外から通いやすくして児童数を増やし、仁賀小学校を存続する計画にはどうか。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
32	P1 はじめに	竹原市立学校適正配置懇話会には保護者代表や地域代表が含まれていたのか。また、懇話会についての情報提供はあったのか。	竹原市立学校適正配置懇話会は、竹原市立学校適正配置懇話会設置要綱第2条の規定に基づき、教育委員会の諮問に応じて、小中学校等の適正配置について審議し、その結果を教育委員会に答申する機関であります。 委員には、教育学を専門とされている大学教授や、民生児童委員、社会教育委員、子ども子育て会議、女性連絡協議会の各代表者や、それぞれの中学校区から学校運営協議会の委員や代表、また小学校・中学校の校長など、あくまで学校の設置に関して第三者的な立場の方（14名）が主な委員となっており、諮問した内容に対して小規模校の課題や保護者アンケートの結果等を踏まえて、客観的視点から意見をいただき、その意見のとりまとめを行ったものが答申であります。 懇話会の委員や議事録、答申等につきましては、市ホームページに掲載しておりますので、御確認ください。	無
33	P4 (3)小規模校の課題	小規模校の課題は理解したが、評価すべきこと等メリットはどうか。	教職員の目が行き届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすい、児童に仲間意識が生まれやすい等のメリットが考えられます（竹原市立学校適正配置懇話会が実施した保護者アンケートより）。	無
34	P7 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	北部4校が賀茂川学園になった時、地域の広がりが広域になる。「総合的な学習の時間」の地域性が心配である。子ども達にとっては、身近な地域から順々に市に県に国に世界に広げていくのが良いと思う。	これまで各学校で作成してきた、地域との連携を密にしたカリキュラムを生かしながら、義務教育学校としての新たなカリキュラムを作成していきます。その際、子供たちが発達の段階に即して、北部地域の人やものや伝統、文化等を身近に感じられるような学習内容が必要となります。一部の地域に特化した学習にならないよう、これまで北部の各学校が地域の方と積み上げてきた単元等を効果的に取り入れ、9年間の発達の段階を踏まえながら、北部地域に誇りと愛着を感じることができる新たなカリキュラムを作成していきます。	無
35		統合再編後、北部地域の放課後児童クラブはどうなりますか。	18と同じ	無
36		適正配置に関する説明会を早急に開催してほしい。	25と同じ	無
37		数年後に通う子育て世帯（賀茂川こども園）への周知はどうなっているのか。	25と同じ	無
38	P10 (3)統合再編後の通学	通学距離が延びることにより、睡眠時間、家庭での学習時間が減少する子供も出てくるのではないかと。	遠距離通学となる児童生徒については、路線バスやスクールタクシー等の通学支援を実施し、通学に係る負担の軽減に努めてまいります。	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
39	P1 はじめに	学校の適正配置を推進してほしいが、別の学校の子供と一緒にすることでいじめ等が増えないことを望みます。	学校全体でいじめの未然防止に努め、早期発見、早期対応に取り組みます。また、子供たち一人一人が笑顔で学校生活が送れるよう、自分や友達を大切にし、思いやりの心をもつなど、学校教育活動全体を通して子供たちの道徳性を養っていきます。	無
40	P10 (3)統合再編後の通学	バス、タクシー等公共交通機関を使うことは良いことだと思う。通学路の安全整備など安全性を確保してほしい。	関係機関と連携し、児童生徒の通学の安全に努めてまいります。	無
41	P10 (3)統合再編後の通学	バス、タクシー等公共交通機関を使うことは、地域の活性化という面も良いことだと思う。また、通学との安全性を確保するために道路整備等を進め、住み良い町、子育てしやすい町になれば、この計画に関係ない市民にも理解が得られると思う。	40と同じ	無
42	P4 (3)小規模校の課題	仁賀小学校では、高学年が低学年に目を配り、自分達で出来る事は協力し、運動会や学習発表会、和太鼓の発表など少ない人数でも見事にやり遂げた。地域の人達のかかわりは子供達にとっては大きな大切な財産である。勉強や他と競うことも大切だが、世代の違う人達と関わり合える子供時代も良いと思います。	6と同じ	無
43		竹原市教育委員会は、仁賀小学校の良さを認めて特認校に選んだにも関わらず、児童減少を理由に統合するのはあまりにも一方的ではないか。また、現在も13名の児童が仁賀小学校の少人数教育に魅力を感じて、この制度を利用しているにも関わらず学校そのものをなくすことは、小規模校こそ必要だと言う児童や保護者ニーズを無視している。学校のあり方はその地域、保護者、児童たちが考え、議論する中で選択するべきものである。誰のための何のための特認校か今一度考える必要があるのではないか。また、仁賀小学校では運動会、神明ばやし、田植え、仁賀ハニー、仁賀小祭りなど地域住民と協力し、今でいうコミュニティ・スクールを地で実現し、地域でしか教えられない教育を行っている。これは竹原市の教育基本理念である「故郷を大切にし、未来を拓く人づくり」に大きく貢献している活動であり、仁賀小学校が統合されてしまえば地域住民と児童の関係が希薄になるだけでなく、これらの活動がなくなり、教育基本理念に反することになる。このように仁賀小学校は竹原市唯一の小規模特認校として、また、地域の中の学校として多様な役割を果たし、そのような価値ある仁賀小学校を統合しようなどという暴論に断固として反対する。	6と同じ	無
44		仁賀小まつりで木造の校舎を見学し、和太鼓を聞いた娘が「この学校に通いたい」と言い、東広島市から移住してきた。特認校仁賀小学校の存続を希望します。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
45		仁賀小学校では1年から6年まで仲が良く、お互いに高め合うことができ、自分に自信を持つことができる。また、他者や地域との交流が多く、コミュニケーション力や思いやりの心が持てる。これは仁賀小学校ならではの社会についての学習法だと思う。統合には反対する。	6と同じ	無
46		仁賀小学校では、今の人数が勉強しやすい。学校に行きたくない子もみんながやさしくしてくれて行きやすい。1年間にいろいろな行事があつていろいろなことが経験できる。以上のことから統合に反対する。	6と同じ	無
47	P7 5 コミュニティ・ スクールを中核とする 義務教育学校の設 立について	現在仁賀小学校17名の内、ほとんどが仁賀小学校を選んで来ている。魅力ある教育こそが竹原の活性化につながる。一定規模の集団も必要だが、小集団も必要。小規模特認校である仁賀小学校は別格として10年先20年先もそれを必要とする子供たちの為に、選択肢の一つとして残していただきたい。	6と同じ	無
48	P9 図1 将来の学校配置 計画	仁賀小学校くらい的人数が自分には居心地が良い。人数と多いと頭と心がかちやごちやする。仁賀小学校を今のままずっと残してほしい。	6と同じ	無
49	P9 図1 将来の学校配 置計画	仁賀小学校では、分からないときは4年生から6年生が教えてくれる。私も4年生になったら、1年生から3年生に教えてあげたい。仁賀小学校をなくさないでください。	6と同じ	無
50	P10 (2)統合再編計画 【賀茂川ブロック】 について	福山市ではイェナプラン教育という特色を持った教育に魅力を感じ、市街から引っ越ししてまで入学を希望する家族があると聞く。仁賀小学校も同じような魅力と可能性を持った小学校だと思う。是非このままの仁賀小学校で小規模校の特色を活かし、存続させてほしい。	6と同じ	無
51		リコーダーで多くの小学校へ講習に行ったが、小規模校は本当に子供たちが豊かだった印象がある。大規模が悪いとは言えないが、小規模は良いという場面に多く出会った。	6と同じ	無
52	P1 はじめに	「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学び」とあるが、統合し1学級の人数を増やすことで個別最適な学びが実現できるか疑問である。少人数学級だと教師1人に係る生徒数も減り生徒一人一人に手厚い対応ができると思う。	「個別最適な学び」とは、教師が子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材等を工夫するなどの「指導の個別化」だけでなく、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」の視点もあります。そのため、北部4校を統合再編した場合においても実現することは可能です。	無



竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
53	P3 表 1	各学校で児童生徒数の減少が見られるが、仁賀小学校は、令和4年11月10日現在17名と増加している。他の学区では登校できなくなった児童や仁賀小学校に通いたいと入学した児童たちのしっかりとした受け皿となっている。	6と同じ	無
54	P4 (3)小規模校の課題	「運動会・文化祭・遠足…制約が生じる」とあるが、これらの問題に対し児童・教師・保護者・地域住民が対応することで地域交流もでき、また多人数校では出来ない経験ができる。仁賀小学校では運動会には地域の方々も参加し授業の中には木彫り細工やはちみつ生産や和太鼓演奏等地域の方々を教師を務めていることもあり課題ではない。	6と同じ	無
55	P4 (3)小規模校の課題	「各教員がより多様でより多くの業務を担うことで、教職員一人当たりの校務・行事負担が重くなること」とあるが、統合し、1クラスあたりの生徒数が増える方が教職員の業務量は増加するのではないかと。また、「子供に向き合う時間の確保が難しくなる」とあるが、生徒数が多い方が向き合う時間が少なくなると思う。	一見、少人数の学校の方が教職員の業務負担が小さく、余裕があるように感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、複式学級における授業の準備も実践も通常の単式学級の二倍の労力をかけることとなり、また、学校運営に係る業務である校務分掌も、教職員一人当たりの担当数や業務量も莫大に増加し、多大な負担となっております。こういった状況は、全国的に進められている学校の働き方改革に逆行することになります。担任以外の教諭が在籍することにより、教職員の余裕は生まれ、また、児童一人一人を多面的に見ることができると考えます。	無
56	P6 4 竹原市が目指す教育の方向性	「すべての子供たちの可能性を引き出す～個別最適な学び」とあるが、仁賀小学校では、すでに木造校舎や自然の中で地域の方々との学びの場も持ちニジマス飼育や養蜂学習等他校ではおこなっていないことも実施している。また、教師が少人数の生徒と向き合う時間も他校より多くあり最適な学びが行われていると思う。	6と同じ	無
57	P8 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	小規模特認校制度を賀茂川学園に適用するようだが、小規模特認校仁賀小学校の役割は現在の木造校舎と自然の中と仁賀地域民の中において最大のポテンシャルが発揮できている状況である。統合して現在の賀茂川中学校の場所になると現在の利点がほとんどなくなる恐れが大きい。統合してしまうと人間関係で他校に行けなくなった児童の受け皿までなくしてしまい問題だと思う。	6と同じ	無
58	P4 (3)小規模校の課題	小規模校である仁賀小学校では、少人数だからこそ、自分がやらなければと責任感をもって、ものごとに取り組んでいる。先生の負担の改善していくところも多々あるが、子供と向き合う時間の確保については、少人数の方が一人一人をきめ細かにみることができる。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
59	P5 (6)保護者アンケートの結果	保護者は、クラス替えができる規模で1学級20人台を望む声が多いとのことだが、割合が大きいからそれだけを目指すやり方は疑問が残る。大人数の中では持っているものを発揮できず、少人数だからこと自身を見つめながら伸びていくことができる子がいることもわかってほしい。将来的に行く学校たったひとつしかない、という状況を作るのではなく、そこにある程度の選択肢を残してほしい。	7と同じ	無
60	P4 (3)小規模校の課題	仁賀小学校の先生の負担については、改善していくところも多々あるが、とてもよく見ていただいている。子供と向き合う時間の確保については、少人数の方がひとりひとりをきめ細やかにみることができるので良いと思う。	55と同じ	無
61	P5 (6)保護者アンケートの結果	クラス替えができる規模で1学級20人台を望む保護者の割合が大きいからといって、それだけを目指すのは疑問が残る。大人数の中では持っているものを発揮できず、少人数だからこそ自身を見つめながら伸びていくことができる子がいることもわかってほしい。どちらが良い、悪いではなく、様々な子がいるから様々なニーズに対応した学校づくりを展開して行ってほしい。	4と同じ	無
62		市内の児童生徒数は減る一方だが、教育に力を入れ、魅力ある学校を作っていくことは他市町からの移住者獲得につながる。若い世代は、必ず子供の教育の充実をみて住む場所を選ぶ。減っていく人数ばかりを数えるのではなく、どうしたら増えるか、前向きな政策ができることを市民として応援したい。	竹原市への移住・定住人口が増加するよう関係部署と連携して取り組んでまいります。	無
63		仁賀小学校では人数が少ないからこそ、みんなで力を合わせたり、遊んだりできる。絶対に仁賀小学校をなくさないでほしい。	6と同じ	無
64	P8 6 具体的な統合再編	竹原市においても、児童生徒数の減少が続いており、小学校の小規模校化に伴う教育環境への影響が懸念されているが、仁賀小学校においては、そのような影響は全くない。むしろ児童数は増えている。17名の児童のうち、13人の児童が特認校制度により竹原市全域から集まってきている。子供達の気持ち、そして保護者・地域の気持ちを汲み取り、仁賀小学校の存続をお願いしたい。	6と同じ	無
65	P8 6 具体的な統合再編	仁賀小学校は、小規模特認校として他市からも選ばれている。木造校舎で少人数だからこそ出来る行き届いた教育が仁賀小学校にはある。仁賀小学校を存続させてほしい。	6と同じ	無
66	P4 (3)小規模校の課題について	私の子供は仁賀小学校に通い複式学級だったが、自分の目標とした仕事について頑張っている。このことを考えると学習環境上の課題は克服されている。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
67		保護者も児童も仁賀小学校は、このまま残してほしいと要望されている。賀茂川学園になってからの特認校では大きくなりすぎて、特認校としての価値がなくなると思う。	6と同じ	無
68	P4 (3)小規模校の課題について	人の成長、物事の理解力には、各々のペースがある。大勢の中で切磋琢磨されて伸びていく人もあるが、そういったペースに馴染まない人もいる。そういう人を切り捨てず、ゆっくりとした個のペースを守ることも必要である。そういう対応をとれるのが小規模校の良さではないかと思う。子供達が安心して成長していける教育環境も残してほしい。	6と同じ	無
69	P4 (3)小規模校の課題について	仁賀小学校では、少人数ならではの全校児童が友達、先生とのかかわりがとても強く、保護者や地域と一緒に学校を盛り上げようと協力し、和太鼓やニジマスの飼育など、自然の中で木の温もりのある校舎で学べ、仁賀小学校でしかできないことがたくさんある。今の時代だからこそ、このような経験のできる学校を残し、これからの子供達に色々な経験をさせてあげたい。仁賀小学校は現状のまま、小規模特認校としての、存続を希望する。	6と同じ	無
70	P4 (3)小規模校の課題について	仁賀小学校の運動会は、少人数だからこそ、一人一人が主体性をもって取り組んでいる。少人数だからこそ、担任以外との関わりもあり、先生が子供達一人一人をよく見て、目が行き届いている。不登校になった子供達の受け皿として仁賀小学校の存在はとても重要。仁賀小学校は現状のまま、小規模特認校としての、存続を希望する。	6と同じ	無
71	P4 (3)小規模校の課題について	仁賀小学校は、人数が少ない小規模校だからこそ、児童船員が主役で、主体性が出てくると思う。自分たちで考え、それを全校児童で実行し、異学年とのコミュニケーションをしっかりと取ることができている。卒業した今でも年齢に関係なくいろいろなことを一緒に楽しんでいる。	6と同じ	無
72	P4 (3)小規模校の課題について	国連子どもの権利委員会から2019年に、日本社会の競争的な性格が子供に悪影響を与えるとして、対策を講じるように勧告を出されている。このような状況もある中での統合はいかがなものか。仁賀小学校の統合には断固反対で小規模特認校としての存続を希望する。	6と同じ	無
73	P4 (3)小規模校の課題について	仁賀小学校を子供たちが卒業後も、親も子供達も仁賀小学校に携わっているし、これからはずっと仁賀小学校を応援していきたい。統合をしてしまうと仁賀小学校ならではの伝統を受け継げない。仁賀小学校の統合には断固反対で小規模特認校としての存続を希望する。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無	
74	P4 (3)小規模校の課題について	小規模だからこそ、いろんな場面で意見したり発表する機会が多く、自分の思いを伝えることができる。大人数の中で上手く馴染めず、学校に行くことに不安を持った生徒の行き場として仁賀小学校はこれからも変わらず、あの場所にあり続けるべき。仁賀小学校の統合には断固反対で小規模特認校としての存続を希望する。	6と同じ	無	
75	P4 (3)小規模校の課題について	小規模校の課題として「学級間で競争など切磋琢磨する機会が減ること」とあるが、子供に成績をつけて順位付けし、競争させてきたからこそ、いじめや不登校が増え、自殺する子供が増えたのではないか。このことは国連子どもの権利委員会からも何度も指摘されており、2019年に示された「日本政府第4・5回統合報告書に関する最終所見」には「日本社会の競争的な性格により、子ども時代と発達に害されることなく、子どもがその子供時代を教授することを確保するための措置を取ること」と勧告されている。	6と同じ	無	
76	P4 (3)小規模校の課題について	小規模校の課題として「様々なコミュニケーションを通じて多様な考え方に触れるのが難しいこと」とある。人数多ければ多様化という必ずしもそうではない。現在の教育環境において、常に大人が子供に正解を示し、価値観や考え方が均一化されているように感じる。みんなと同じ意見や考え方は排除しようとする大人の方が圧倒的に多いと感じる。そのような中で、人数が少なくても、管理に労力がかからず、子供たち一人一人の気持ちや考え方向き合うことができる余裕のある大人がいる場所でこそ、大人も子供の安心して自分の考えを話すことができ、多様な考えに触れることができる。	学習指導要領には「主体的・対話的で深い学び」の実現について示されており、教師が一方向的に教え込むのではなく、児童生徒自らが課題に向けて、主体的に学ぶ姿を目指しています。そのため、均一的な価値観や考え方の押し付けではなく、学びの多様性の意義を踏まえ、学習を通して様々な見方や考え方があることを知るができるよう授業改善を図っています。	55と同じ	無
77	P9 将来の学校配置計画	各ブロックごとに統合し、学校の人数規模を大きくすることも必要かもしれないが、仁賀小学校の校舎を使い、人数の多い学校に生きにくい子供や自然の中で感性を育みたい親子、少人数で主体性を伸ばしたい家庭のために現状のまま存続させることを希望する。	6と同じ	無	
78	P8 6 具体的な統合再編	仁賀小学校でこれまで行われた太鼓やニジマスの飼育などは統廃合することによって、続けることが難しくなるのではないか。統廃合の目的は大人数でコミュニケーション能力を身に付けるとのことだが、少人数だからこそ生まれるタテのつながりも大切である。目の前にある問題にのみ目を向けるのではなく、竹原の将来のことを考え、仁賀小学校を残すという選択をしてほしい。	6と同じ	無	

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
79	P8 6 具体的な統合再編	仁賀小学校に入学・転入した児童は豊かな自然を五感で感じることができる環境とカリキュラムの中で心豊かに成長している。児童全員が主役になれる小規模校ならではの特色ある学校は竹原市の魅力であり、移住にもつながっている。仁賀小まつりは地域の活性化にもつながっており、イベントを楽しみにしている他校や未就学の子供も多くいる。今後は仁賀の自然豊かな環境を活かし、自然体験学習校として更に特色を出していけばさらに魅力的な学校になり、竹原市の魅力にもつながると思う。今後も仁賀小学校を存続させることを求める。	6と同じ	無
80	P8 6 具体的な統合再編	仁賀小学校は自然豊かで地域にも神明や田植え、稲刈りでお世話になり、たくさんの体験ができる。プールでのニジマス飼育、つかみどり、つりができる。仁賀小学校をなくさないでほしい。	6と同じ	無
81	P1 はじめに	少子化が著しい現代、小規模の学校があることにより子供の中には安心して過ごせる環境があることを知ってほしい。先生と生徒という関係をオープンかつ密にできるという十分なメリットがある、	55と同じ	無
82	P3 児童生徒の現状について	少子化を危惧されているが、仁賀小学校の児童数は維持されている。ということは保護者と子供の間で何かしら「行きたい」と思える理由があると思う。通う理由をもっと聞いてほしい。	6と同じ	無
83		「行きたくなる学校」「学びたくなる学校」に近づけるためにどうしたら良いのか、日々考えている。地域とより密にオープンにしていくことも課題だと思う。もっと子供が暮らしやすい社会になるよう一人一人の思いに慎重になるべきである。	6と同じ	無
84	P1 本計画の趣旨 P4 (3)小規模校の課題について P5 (6)保護者アンケートの結果 P6 (2)竹原市教育大綱 P10 (3)統合再編後の通学	管理の簡素化のために中央集約を図ることは多くの子供が仲間からはじきだされ、教師との距離も遠くなって不登校やひきこもりを招くおそれもある。中央集約より少数教育を考え学校の平均化を考えて、個の教育を充実させていくべきである。子供達がバスなどの交通手段を使って竹原小学校に通うなら希望を募って、竹原から大乗小に通学するという選択肢もあると思う。	4と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
85		町おこしの立場としては、統合すると町として子供とコミュニケーションの意識を持てる場所がなくなり、協働の意識が薄くなって良いことは一つもない。現在廃校されている町の現状はどうなっているか。	P10「（４）統合再編後の学校運営協議会」で記したように旧学校の学校運営協議会も新学校の学校運営協議会の部会として存続させ、互いに連携・協働し、これまで培った地域活動や地域行事の存続・発展や地域課題の解決を図ることにより、閉校した地区の活性化を促進していきます。	無
86		親の声を謙虚に、真摯に受け取り、仁賀小学校を特認校にした原点にかえり、仁賀小学校を特認校として継続するよう願う。	6と同じ	無
87		それぞれの学校にはそれぞれの歴史があり、何より自分が卒業した仁賀小学校がなくなってほしくない。仁賀小学校には地域の人達と関わりのあるたくさんの思いが詰まっている。	6と同じ	無
88		仁賀小学校には、ニジマスの飼育や楽しいことがたくさんあるので、なくさないでほしい。	6と同じ	無
89	P4 (3)小規模校の課題について	大人数の学校でも小規模の学校でもどちらも良い部分があると思う。自分は大規模な学校から仁賀小学校に転校してきたが、少人数だとどうしてもやらないといけないことがあり、苦手なことを克服できたことも多い。先生が親身にスモールステップで細かく話を聞いてくださり、安心感を持ちながら学ぶことができた。同級生は少ないが、上級生下級生でコミュニケーションを取る勉強になった。	6と同じ	無
90	P6 4 竹原市が目指す教育の方向性	私は勉強があまり好きではなく、得意でもないが仁賀小学校の先生が細かく教えてくださり、転校してきたことよりできるようになり、勉強をやる気が出てきた。	6と同じ	無
91	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	自分が仁賀小学校で経験したこと、自然の中で学べ、地域の方と連携できたことを色んな方に経験してもらいたいの仁賀小学校を存続してほしい。	6と同じ	無
92		地域住民にアンケートを取ってほしい。	25と同じ	無
93		学校は地域のよりどころ	85と同じ	無
94		通学方法は。放課後児童クラブはどうするのか。	18と同じ 27と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
95		学校は地域のよりどころ	85と同じ	無
96		子供は地域の宝	85と同じ	無
97		少人数教育も良いのではないかと思う。統合されると通学方法に心配がある。	27と同じ	無
98		子供の声が聞けないと寂しい。	85と同じ	無
99		子供は本当に地域には必要。朝、夕の声が聞こえないと寂しい。「おはようございます。さようなら」は必要。	85と同じ	無
100		可能な限り、地域に小学校を残してほしい。	4と同じ	無
101		学校は地域のよりどころ	85と同じ	無
102		子供は国の宝、将来に帰する地域の至宝。国家100年の計を図るには、子供育て、教育は疎かに出来ない緊急の課題だと思う。闇雲な統合は疑問を呈す。	4と同じ	無
103		素案のとおり、義務教育学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい。 （仮称）賀茂川学園において、仁賀小学校はいろいろな支援を求める児童等の受け皿として、今後も対応して誰一人取り残さない教育環境として今の場所で分校として残してほしい。	6と同じ	無
104		事前に地域別に説明してほしい。	13と同じ	無
105		賀茂川学園に統合する理由として、子供の少子化などを挙げているが、その理由なら吉名学園や忠海学園より先に賀茂川学園ではないか。	平成19年に竹原市立学校教育システム検討委員会より受けた答申「竹原市立小中学校における『通学区の弾力化』及び『小中一貫教育』の在り方」を踏まえ策定した「竹原市小中一貫教育基本方針」に基づき、忠海中学校区及び吉名中学校区において施設一体型小中一貫校を設立しました。	無
106		東野小学校は20名弱の小さな学校になったが、その分地域の人達との交流はよく行っている。子育てはこのような風景が理想と思う。人数が増えるといじめや馴染みにくい面が出てくると思うので、その点は重視してほしい。また通学その他いろいろな点があるので、考えてほしい。	85と同じ 27と同じ	無
107		保護者にはしっかり説明をされていると思うが、地域に学校がなくなることは大変なことなので、説明してほしい。	25と同じ	無
108		パブリックコメントの期間が1か月では短い。竹原市民でパソコンで情報を得ることができる人は限られている。ホームページに掲載したから、市民に十分に情報を伝えたいと思わないでほしい。	25と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
109	P2 本計画の趣旨	ホームページの学校適正配置懇話会の名簿によると、学識経験者には小規模小学校での勤務経験のある方は見受けられない。公平性を保つべきである。	32と同じ	無
110	P5 (6)保護者アンケートの結果	全保護者を対象としたとあるが、総数はいくらか。回収率96.79%の数はいくらか。「下記のことになりました。」と列記されているが、これかの意見はそれぞれ何名か。将来入学するであろう保育所の保護者にはアンケートを取ったか。アンケートを取る前に、小規模校・大規模校のメリット・デメリットについて説明をしたか。以上のことからアンケートの取り方に不備があったと考えられる。丁寧な住民説明会と広報による説明を求める。	保護者アンケートの総数及びその結果等詳細については、市ホームページに掲載しておりますので、御確認ください。 25と同じ	無
111		東野町民にとって学校は地域のよりどころであり、子供は地域の宝と思って生き生きと暮らしている。多人数で切磋琢磨して競争するだけが子供の成長を促すものではない。地域に守られ安心して子育てできる環境は人を呼び込み活性化するためにも、地域には小学校が必要である。学校の適正配置は人数だけで考えないでほしい。東野では東野小学校の存続を強く求める。	6と同じ	無
112		子供は地域の宝、地域で見守りたい。	85と同じ	無
113		通学方法は。放課後児童クラブはどうなる。	18と同じ 27と同じ	無
114		東野小学校は、少人数の学校でのびのび過ごせていい環境であるし、放課後も友達と近くで遊ぶので安心している。もう少し詳しく説明を聞きたい。	25と同じ	無
115		東野小学校は、少人数の学校でのびのび過ごせて、地域の人と稲刈りなどしてふれあい合って良い。突然のことなのでもっと詳しい事を聞きたい。	25と同じ	無
116		東野小学校の近くには川や畑があり、子供は学校から帰ると虫とりや魚とりをしている。近所のおじいさんが「わしが見とってやる」と声をかけてくれるので助かる。地元には学校があると温かい声掛けがあるので良い。	85と同じ	無
117		地域で子供を見守り育てることが現代社会でただ一人の生徒でも救われるかも知れない、どんなカリキュラムよりも心強い、力強いのではと確信に近い思いがある。どんなに大変でもただ一人の生徒の生命が生かされ、失われることなく、しずむことなく生き生きできるのは地域の力である。	85と同じ	無
118	P4 (3)小規模校の課題について	児童数の著しい現象が基底にあっての、適正配置計画（案）とを感じる。そこだけで考えずに子供たちのこと、地域のことを考えたうえで、学校数について再度考えていただきたい。	4と同じ	無



竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
119	P6 4 竹原市が目指す教育の方向性	「それぞれの地域の活性化のため、学校運営協議会制度も活用しながら、地域の歴史や文化などの特色を活かした教育もあわせてすすめていきます。」は、いずれ1校にすると、実質途絶えるものがあり、難しいと思う。同じ竹原市でも各校がある地域には、個々に本当に地域の歴史や文化に違いがあり、特色がある。	7と同じ	無
120	P9 図2 竹原市立学校の統合再編スケジュール	多様な取り組みが必要な子供が増えており、また不登校の子供も増え続けその原因も様々で性の多様性を尊重した教育も急がれる。であるなら、もっと多様性を生かし尊重するような、個に応じた学習がより保障できるよう、選択肢を市内に増やすべきで、4校、いずれ1校に集約すべきでないと思う。	7と同じ	無
121	P5 (6)保護者アンケートの結果	保護者が一般的な話として適用であると考えられる学校規模が実際に自分の子供が通う学校の話となった場合、必ずしもあてはまるものではないと思う。学校の統廃合については、計画ありきで進めるのではなく、具体的な話が出たときに、対象となる保護者の思いや考えを丁寧に聞いた上で、納得が得られる方向で進めるべきだと思う。	4と同じ	無
122	P10 (3)統合再編後の通学	通学区域が広いと通学するための交通手段が必要となり、天候、学校行事、登下校時間の変更等によって、保護者の負担が増える。	27と同じ	無
123	P5 (4)学校施設の老朽化	学校の老朽化の問題は深刻であり安全面への不安を生じさせる。また、老朽化はトイレの汚さ（掃除の徹底では解決できない状態の汚れ）、臭い（排水管の老朽化のためか、トイレの外まで異臭が漂っている状態）などの問題も引き起こしている。適正配置計画と併せて、学校の老朽化の問題も早急に対応すべき問題だと思う。	竹原市教育委員会では、安全・安心で質の高い教育環境の確保や防災機能の強化を図りつつ、維持管理コストの縮減によるライフサイクルコストの軽減、財政負担の平準化を図るため、令和2年に竹原市立学校施設長寿命化計画を策定し、取り組みを進めています。	無
124	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	大人数での切磋琢磨も大切な事かもしれないが、それは一部にすぎない。確かに竹原市の学力アップにつながるかもしれないが、行事での思い出や地域の人達との交流など勉強以外にも今しかできないことがたくさんある。自分の場所を失くした子供が行ける学校として仁賀小学校は残してほしい。	6と同じ	無
125		仁賀小学校は竹原市が目指しているすばらしいコミュニティ・スクールだと確信している。もっと子供たちのこと、竹原のこと、日本のこと、地球のこと、本当にグローバルな目線で、多様性を受け入れ合い、みんなが幸せで安心してらせる社会づくりをともに取り組んでいきたい。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
126	P6 4 竹原市が目指す教育の方向性	今後の人口減少に備えての統合ではなく、将来の地域の可能性や過疎に向かっている地域のためには教育への予算を増やし、地域の活性化と移住者が増えるような竹原市にしてほしい。	62と同じ	無
127	P6 4 竹原市が目指す教育の方向性 P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設立	近い今後ではなく未来を見据えて、仁賀小学校だけは残しておき、歴史を紡いでいくと、後にチャンスをつかむきっかけになる子供が出てくると信じている。人口減少に伴う予算の確保は難しいかもしれないが、竹原の未来を作る子供たちにもう少し目をむけてほしい。	6と同じ	無
128	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設立	仁賀の自然環境は何ものにも代え難いので、失う前に素晴らしい小学校を大切に残していただきたい。	6と同じ	無
129	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設立	仁賀小学校は素敵な校舎、自然あふれる環境の中、のびのびと過ごす子供たちの笑い声があり、なくなるのは寂しい。学校にいけない子供、集団に馴染めない子供も少数だから行ける、そんな場所がなくなるのは悲しすぎる。子供たちの憩いの場所、地域の方の交流の場所を絶対に残すべきだと思う。	6と同じ	無
130	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設立	大自然に囲まれて子供が安心できる場所を残してほしい。子供達の心を第一に考えなければならぬと思う。	6と同じ	無
131	P8 (1)今後20年の見通しを踏まえた統合再編スケジュール	仁賀小学校は、美しい自然の中で子供がのびのびと学べる学校なので、なくさないでほしい。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
132	P6 (2) 竹原市教育大綱について	竹原市は小さな市だが、西は吉名、東は忠海、北は仁賀に至るまで、祭りや行事など、それぞれの町が全く独自の文化を大切に守っている。これらの多様な文化・生活を基盤として、地域の大人たちに子供たちが見守られ育てられる環境を整えていくことこそ、大人の責務と思う。各地域に学校がない、統合により選択の余地すらないというのは町の衰退の未来しか見えてこない。	85と同じ	無
133	P7 (3) 将来の教育の方向性	少子化というが、現実には兵庫県明石市や岡山県奈義町等、子育て世代が増加し、出生率も上がり、それにより税収も増え、町のインフラも整ってきて他の福祉事業も整ってきている事例はいくつもある。他の市町村でできて何故竹原でできないのか。	62と同じ	無
134	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	どの子にも、どんな状況でも教育を受けられるようにするのは大人の責務で、その選択の場ができるだけ広くあるよう願う。また、そういう教育を広く、他市、他県にも紹介していけば特に自然と文化に恵まれた仁賀小や忠海学園など山村留学におすすめるのではないかと考える。	6と同じ	無
135	P3 (1) 児童生徒数の現状 P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	仁賀小学校の児童数推移をみると他の学区から入学する児童の割合が年々増加している。送迎のための時間もかかるのになぜ、わざわざ学区外の学校に通っているのか、その理由や仁賀小学校の魅力をもっと把握してほしい。20年後の竹原を考えるのであれば、公立でありながら私立学校のような特色ある独自性の濃い仁賀小学校を特認校として残し続けることが30年から40年と経過した時に価値が認められると考える。	6と同じ	無
136	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	仁賀小学校だったら行けそう、仁賀小学校に行かせたいから移住した、他の学校ではダメだったが、仁賀小学校だから通える、そのような子供はどうなるのか。	6と同じ	無
137	P8 (1) 今後20年の見通しを踏まえた統合再編スケジュール (2) 各ブロックの統合再編	仁賀小学校は全国的に希少な木造建築で、将来の子供たちに残すべき建造物であり、大事な財産として保存していくべきと思う。仁賀小学校を統合させる計画案に反対する。	6と同じ	無
138		仁賀小学校は世界的にみても素晴らしい学校だと思う。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
139	P4 (1)児童生徒数の現状について	児童生徒数が減少とすると見込まれているのに対し、不登校で悩む人数は昔に比べて多くなっているのを感じる。そんな時代だからこそ、受け皿として選択肢は多ければ多いほど良いので、子供たち、それから教育現場を支える先生たちにとっても学校はなるべく多く残しておくべきだと思う。地域のコミュニティー、過疎の問題の柱として、やはり地域に学校は必要と思う。東広島の発展に伴うベットタウンとしての可能性を含め、不登校児童の行きやすい小規模特認校の必要性を考え直すことを希望する。	6と同じ	無
140	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設立	学校の統廃合は、少子化に伴いなされるものと理解するが、教育の多様性をうたう教育理念から、特色ある仁賀小学校を残していただきたい。	6と同じ	無
141	P4 (3)小規模校の課題について	他校から仁賀小学校に転校してきて、友達がたくさんできた。仁賀小学校が好きになった。	6と同じ	無
142	P8 6 具体的な統合再編	仁賀小学校は、地域に密着しており独特な文化と伝統があるため、統合してなくさないでほしい。特認校であり自由に選択して通える唯一の学校なので仁賀小学校を残してほしい。	6と同じ	無
143	P2 1 本計画の趣旨	少子化の傾向、児童生徒数が減少しているのは竹原市が子育てしやすい環境をつくりだしていないからでは。他の市町村ではインフルエンザ予防接種等が無料のところもある。学校数を減らして統合する前に、市議会議員など減らすべきところを減らして、竹原市の人口を増やす努力をしてほしい。	62と同じ	無
144		他市では児童に合う学校を選択できるが、竹原市は学区外の選択がすんなりできない。大人数で切磋琢磨しながら学校生活を送れる子もいれば、少人数で自分のペースでないと感じる子がいる。	6と同じ	無
145	P9 図1将来の学校配置計画	仁賀小学校は特認校であり、恵まれた自然や地域独自の文化や伝統はそのまま残してほしい。	6と同じ	無
146	P8 6 具体的な統合再編	仁賀小学校に通うようになって生き生きと学校に通えるようになった子供たちがたくさんいる。小規模校の課題はあると思うが、仁賀小学校を統合するのは待つてほしい。児童数減少による統合は致し方ないところもあるが、特認校として存在してきた仁賀小学校の存続を強く希望する。	6と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
147	P7 5 コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設立	子供たちにとっては、選択肢の多い方がより幸せではないかと思う。竹原市の素晴らしい環境をより整備され、若い方たちにどんどん転入していただけるような大胆な取り組みがなされるよう期待する。	62と同じ	無
148	P8 6 具体的な統合再編	大きい集団の中で切磋琢磨も魅力的で小集団でクラス替えもできず固定化された人間関係に苦しむ子もいる。そのため、大規模な小学校も必要だと思うが、その一方で大きい集団の中に入りづらい子がいることも事実で計画P8「誰一人取り残さない教育環境」とあるように特認校である仁賀小学校も竹原市の子供たちの「選択肢」の中に必要な学校である。小規模を良いと思う意見もまた少数であるが、その声が届くことを願っている。	6と同じ	無
149		仁賀小まつりに行った際に和太鼓演奏やプールでのニジマス飼育、自然に囲まれたすばらしい木造校舎を見学した。他校にない仁賀小学校の魅力を感じ、我が子も仁賀小学校で学べたらと思った。小規模特認校がなくなると、小学校を選択できなくなるので仁賀小学校を残してほしい。	6と同じ	無
150	P6 4 竹原市が目指す教育の方向性 P8 6 具体的な統合再編	東野小学校区では、これまで地域（自治会、町社協、交流センター、地域の有志等）と一体となって児童を育てている。例えば地元自治会と連携して、運動会、盆踊り大会、河川清掃、神明さんなどの行事を児童と一緒に取り組むことにより、計画P6「4 竹原市が目指す教育の方向性」を実現している。しかしながら、東野小学校が廃止されると、これらの行事が困難となり、児童の「学び」が少なくなる。また、地域としても児童とも交流が少なくなり益々元気がなくなる。よって本統合案には反対する。	85と同じ	無
151	P1 はじめに P6 (1) 学習指導要領等が目指す資質・能力と学び	今現場では、いろいろな特性をもった子どもたち、今までとは別の学び方が必要な子どもたちが増えており、「個に応じた指導法」を考えていく必要がある。学び方の違う子へのサポートはこれまでの切磋琢磨の方法ではうまくいかない状況が増えている。集団の中で個が埋没することがないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすには今は小集団である。協働的な学びには、他学年も加え小集団で可能。	4と同じ	無

竹原市立学校適正配置計画（素案）に対する意見及び市の考え方

※計画（素案）に対する意見について、市の考え方を示しています。感想等については参考にさせていただきます。

番号	該当頁	意見の趣旨	意見に対する市の考え方	修正の有無
152	P1 はじめに P6 (1) 学習指導要領 等が目指す資質・能力と学び	今現場では、いろいろな特性をもった子どもたち、今までとは別の学び方が必要な子どもたちが増えており、「個に応じた指導法」を考えていく必要がある、学び方の違う子へのサポートはこれまでの切磋琢磨の方法ではうまくいかない状況が増えている。集団の中で個が埋没することがないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすには今は小集団である。協働的な学びには、他学年も加え小集団で可能。	4と同じ	無
153	5コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校の設定	地域に根ざした教育には、地域に学校があることが必要なので、学校は現在のまま残してほしい。	85と同じ	無
154		統合について、地域には説明が何もないうまま突然新聞報道がされ驚いた。それが「地域に根差したコミュニティ・スクールの実現」なのか。住民に対してもとても失礼な話だと思う。	13と同じ	無